

ス需要や機関投資家筋の条件改定を見越したかけ込み需要などから高水準を続けたあとだけに、9月には868億円と前月(1,634億円)に比べ大幅な減少となった。

9月の株式投信は、株式市況の低迷を映じて設定が186億円と前月(267億円)を大幅に下回り、昨年11月(184億円)以来の低水準となったものの、解約は91億円と前月(172億円)のほぼ半分にとどまったことから、元本の純増は月中76億円と前月(73億円)をわずかに上回った。運用面では株式買付け額が99億円(前月262億円)と43年1月(48億円)以来3年8か月ぶりに100億円台を下回り、9月末の株式組入れ比率も55.9%(前月末57.3%)に低下した。

9月の公社債投信は、10月からの予想収益分配率の引下げ(7.7→7.5%)を見越して設定が247億円(前月235億円)に上ったことから月中元本増加額は117億円と前月(105億円)を上回る増加となった。

起 債 状 況

(単位・億円、カッコ内は純増額)

	46年		46年			45年
	4~6月	7~9月	8月	9月	10月	10月
事業債	2,029 (1,246)	2,439 (1,680)	776 (528)	855 (593)	882 (642)	478 (215)
うち電力	825 (519)	1,058 (740)	360 (257)	363 (251)	364 (269)	212 (104)
一般	1,204 (728)	1,381 (940)	416 (271)	492 (342)	518 (372)	266 (112)
地方債	229 (100)	256 (118)	89 (42)	90 (43)	90 (48)	79 (52)
政保債	620 (178)	842 (179)	230 (5)	392 (117)	375 (205)	252 (110)
計	2,878 (1,525)*	3,537 (1,978)	1,095 (576)	1,337 (753)	1,347 (895)*	809 (377)
金融債	8,773 (2,132)	10,036 (3,716)	3,642 (1,634)	3,089 (868)	3,588 (1,522)	2,629 (930)
うち利付	3,469 (1,772)	4,804 (2,770)	1,977 (1,343)	1,324 (513)	1,575 (979)	908 (422)
新規長期国債	1,300 (1,300)	1,200 (1,200)	100 (100)	1,000 (1,000)	1,500 (1,500)	400 (321)
うち証券会社引受分	97 (97)	123 (123)	36 (36)	55 (55)	80 (80)	32 (32)

(注) * 世銀債発行6月110億円、10月120億円を除く。

実体経済の動向

◇企業投資は鎮静持続

(生産—9月はかなりの増加)

鉱工業生産(季節調整済み、前月比)は8月に-0.6%と減少したあと、9月(速報)は+1.7%とかなりの増加を示した。これには、前2か月低調だった資本財の反動増や、夏休み明けに伴う増産要因などが響いているものとみられる。なお、原計数の前年同月比は7月+3.5%、8月+3.7%、9月+4.5%と回復傾向がみられ、7~9月期でも季節調整済みの前期比は+3.5%と4~6月期(-1.2%)に比べかなりの増加となった。

9月の動きを特殊分類別にみると、資本財輸送機械がトラックの反動増を中心に大幅増加を示したほか、一般資本財も一部大型機種を主体に若干の増加(+2.7%)となった。耐久消費財の増加(+1.6%)は新車発売が集中した小型乗用車の大幅増によるものであるが、このところ好調だったカラー・テレビは減少を示した。一方、建設資材は前月に続き減少(-1.8%)したが、これには橋りょう、みがき板ガラスの減産が響いている。また、生産財も普通鋼鋼材、プラスチック、銅、染色整理織物類を中心にわずかながら減少(-0.3%)した。

なお、最近の企業の生産態度をみると、米国の輸入課徴金実施や為替変動幅の制限停止等に伴う先行きの需給悪化を懸念して、このところ慎重になっており、鉄鋼、合繊、化学、非鉄、石油精製等、かなりの業種で秋口以降生産調

鋳工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	45年		46年		46年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7月	8月	9月
鋳指数	221.5	220.2	224.5	221.8	229.1	227.8	—
工前期(月)比	2.6	-0.6	2.0	-1.2	0.6	-0.6	1.7
業前年同期(月)比	16.9	10.8	8.7	2.9	3.5	3.7	4.5
投資財	3.8	1.6	4.5	-4.3	-0.4	-1.4	3.7
資本財	5.7	2.2	5.5	-5.6	-1.4	-1.3	5.9
同(輸送機械を除く)	7.5	2.7	6.1	-8.8	-3.0	0.7	2.7
輸送機械	-1.0	2.3	4.4	3.0	1.5	-4.6	—
建設資材	-1.0	-0.1	1.3	-0.4	3.2	-0.8	-1.8
消費財	1.5	-2.9	1.2	2.3	1.3	-1.5	2.0
耐久消費財	2.0	-3.6	0.8	1.2	5.5	-1.6	1.6
非耐久消費財	1.3	-2.2	2.1	2.4	-1.8	-1.1	1.2
生産財	1.6	-0.4	0	-0.8	1.3	1.2	-0.3

(注) 1. 通産省調べ、46年9月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

整を強化する動きがみられる。

(出荷——前月減少の反動もあって大幅増)

鋳工業出荷(季節調整済み、前月比)は8月に大幅に落ち込んだ(-3.0%)あと、9月(速報)は+4.9%と著増した。これには船舶の引渡し集中が大きく響いており、船舶を除くと+2.9%と前月の落込み幅(-3.2%)を回復していない。なお、原計数の前年同月比は7月+4.4%、8月+3.0%から9月は+6.2%に上昇したが、7~9月期の季節調整済み前期比は+2.3%と生産の伸び(+3.5%)を下回った。

特殊分類別では、資本財輸送機械が船舶、鉄道車両をはじめとして大幅に増加したほか、一般資本財も大型重電機器、電算機、自動交換機等を中心にかんりの増加(+5.1%)を示した。そのほか、生産財(+0.9%)は化学肥料、電子部品を中心に、また非耐久消費財(+0.7%)も皮革・紙製品を主体に微増を示した。反面、耐久消費財では乗用車が新車のいっせい発売に伴い好伸したものの、カラー・テレビや夏物家電製品(エアコンディショナ、扇風機)の減少が響いて、全体では微減(-0.1%)となった。建設資材も前月に続き減少(-0.3%)したが、これは橋りょう、みがき板ガラス、

鋳工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	45年		46年		46年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7月	8月	9月
鋳指数	210.9	209.6	214.5	215.5	221.5	214.8	—
工前期(月)比	2.6	-0.6	2.3	0.5	1.6	-3.0	4.9
業前年同期(月)比	14.3	8.2	6.0	4.9	4.4	3.0	6.2
投資財	3.1	2.3	2.1	-0.6	-0.3	-1.6	14.3
資本財	4.5	3.2	4.2	-1.0	-0.9	-1.8	20.1
同(輸送機械を除く)	7.4	0.3	2.8	-8.2	-2.4	2.4	5.1
輸送機械	0.2	9.3	-2.6	13.4	0.7	-8.1	—
建設資材	-0.5	0.2	-0.3	0.9	1.9	-1.4	-0.3
消費財	2.7	-3.4	4.1	3.3	4.2	-7.3	0.4
耐久消費財	2.9	-3.2	2.0	7.8	7.8	-9.6	-0.1
非耐久消費財	3.3	-3.2	4.8	0.5	2.4	-4.6	0.7
生産財	1.7	-0.6	0.4	-0.2	0.6	0.1	0.9

(注) 1. 通産省調べ、46年9月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

コンクリート管・パイル等の減少によるものである。

(製品在庫——横ばい)

生産者製品在庫(季節調整済み、前月比)は8月にかんり増加した(+1.7%)あと、9月(速報)は横ばいとどまった。7~9月期中でみても+0.4%

鋳工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	45年		46年		46年		
	9月	12月	3月	6月	7月	8月	9月
鋳指数	211.5	233.1	238.1	238.7	235.7	239.6	—
工前期(月)末比	6.2	10.2	2.1	0.3	-1.3	1.7	0
業前年同期(月)末比	21.6	25.7	27.6	19.3	15.5	13.8	12.8
製品在庫率指	99.6	108.4	107.0	109.4	106.4	111.5	106.3
投資財	8.3	15.3	9.3	8.7	-0.1	0	-1.0
資本財	8.8	22.2	12.8	13.9	-0.8	0.2	-3.2
同(輸送機械を除く)	13.9	20.6	10.8	12.0	2.6	-0.3	-1.4
輸送機械	-10.6	26.4	15.6	25.0	-16.5	2.0	—
建設資材	8.0	5.4	5.9	1.3	0.8	0.3	1.8
消費財	3.9	9.6	-3.2	-3.4	-4.9	2.1	-1.2
耐久消費財	4.5	0.8	0.1	-10.1	-8.8	-2.0	-3.0
非耐久消費財	1.1	15.8	-3.5	4.2	-1.6	4.9	1.8
生産財	6.9	7.6	5.7	-1.8	1.5	2.7	1.3

(注) 1. 通産省調べ、46年9月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

と、前期(+0.3%)同様微増にとどまっている。

特殊分類別にみると、資本財輸送機械がトラックを主体に大幅に減少したほか、耐久消費財も乗用車を中心に5ヵ月連続して減少(-3.0%)したが、反面、建設資材(+1.8%)、非耐久消費財(+1.8%)、生産財(+1.3%)は小幅の増加を示した。とくに生産財では普通鋼圧延鋼材、非鉄地金、合繊糸等市況品目の在庫が再び増加している点が注目される。

以上の結果、9月の製品在庫率指数(速報)は106.3と前月(111.5)比かなりの低下を示した。3ヵ月移動平均で月々のフレをならしてみると、6月109.5、7月109.1、8月108.1とわずかながら低下傾向がうかがわれる。

(原材料在庫—ほぼ横ばい)

原材料在庫(製造工業、季節調整済み、前月比)は8月に1年ぶりに減少した(-2.2%)あと、9月(速報)も+0.1%とほぼ横ばいにとどまった。特殊分類別では、国産分が前月かなり減少した(-1.4%)あと、9月は微増(+0.2%)となったが、輸入分は前月(-3.8%)に続きわずかながら減少(-0.1%)した。業種別にみると、非鉄および金属製品では消費の低調も響いて増加したが、一

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	46年			46年		
	3月	6月	9月	7月	8月	9月
在庫指数	184.9	190.3	188.8	192.8	188.6	188.8
前期(月)末比	6.9	2.9	-0.8	1.3	-2.2	0.1
国産分	6.5	-0.1	0.3	1.6	-1.4	0.2
素原材料	22.2	4.4	-3.8	0.2	-1.8	-2.3
製品原材料	1.8	-1.8	1.2	1.8	-1.5	1.0
輸入分	8.5	8.7	-2.5	1.4	-3.8	-0.1
素原材料	9.2	9.9	-2.1	1.5	-3.9	0.3
在庫率指数	91.1	95.1	91.9	95.0	92.0	91.9
国産分	86.1	87.4	85.2	87.6	85.3	85.2
素原材料	116.5	123.2	117.9	123.4	120.2	117.9
製品原材料	81.8	81.7	79.9	81.8	79.7	79.9
輸入分	105.5	114.7	111.5	113.9	110.5	111.5
素原材料	105.4	115.7	112.5	115.0	111.4	112.5

(注) 通産省調べ、46年9月は速報。

方、船舶、石油、皮革等では前月に続いてかなりの減少を示した。

なお、7~9月期中としては-0.8%の減少となり、1~3月(+6.9%)、4~6月(+2.9%)と期をおって原材料在庫投資が減少してきたことを示している。

(販売業者在庫—3ヵ月連続して減少)

販売業者在庫(季節調整済み、前月比)は前2ヵ月(6月-2.5%、7月-1.2%)に続いて、8月も-1.7%とかなりの減少を示した。品目別には、繊維、生ゴムを除く全品目で減少しており、とくに非鉄金属製品の大幅減少が目だったが、そのほか鋼材、夏物家電製品やテレビの売れ行きが好伸した民生用電気機械、モデル・チェンジを控えた自動車等も若干の減少を示した。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	45年	46年		46年		
	12月	3月	6月	6月	7月	8月
総合指数	184.3	187.4	188.4	188.4	186.1	183.0
前期(月)末比	3.9	1.7	0.5	-2.5	-1.2	-1.7
素原材料	12.0	3.8	1.2	-4.8	6.5	-3.7
製品	3.2	1.9	0.5	-2.4	-1.7	-1.6

(注) 通産省調べ、46年8月は速報。

(設備投資—製造業を中心に停滞基調)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み、前月比)は、8月に小幅増加(+2.4%)のあと、9月(速報)は+5.1%とかなりの増加を示した(原計数の前年同月比、8月-0.3%、9月+5.9%)。品目別にみると、大型重電機器(非標準変圧器、電動機)、デジタル計算機、農業用機械、機械プレス等が増加の大宗である。なお、7~9月期としては前期比+3.5%の増加となったが、4~6月期の大幅落込み(-8.2%)から回復するまでには至らず、製造業を中心に設備投資は引き続き停滞基調とみられる。

機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は8月減少(-14.9%)のあと、9月も+1.0%とほぼ横ばいにとどまった。原計数の前年同月

比は8月-6.3%、9月-14.3%と、2ヵ月連続して前年水準を下回っている。受注先業種別にみると、製造業が石油、化学、機械、自動車等を中心にかなり増加(+19.5%)したが、これには前2ヵ月減少の反動や、期末にあたり受注計上を急いだことなどが響いているものとみられる。一方、非製造業は電力、運輸を中心としてかなりの減少(-14.1%)を示した。

なお、7~9月期としては、「船舶を除く民需」で前期比+20.8%とかなり増加したが、これはもっぱら非製造業が電力の反動増によって著増(+45.3%)したためで、製造業は1~3月(+2.2%)、4~6月(-0.5%)とほぼ横ばいに推移したあと、7~9月期には-12.6%と再び落込みを示している。また、10~12月期の受注見通し調査によれば、「船舶を除く民需」ベースで前期比-4.1%と減少が予想されており、このところ見通しの達成率がかなり低下していることからみて、実際にはこれよりさらに低めになる可能性も少なくないとみられる。

建設工事受注(民間分、季節調整済み、前月比)は8月(+15.4%)に続いて9月(速報)も+31.0%とかなり大幅な増加を示した。これには、非製造業が引き続き堅調な伸びを示していることのほか、期末決算対策に伴う受注の集中計上も響いている模様である。なお、7~9月期としても、前

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、単位・億円)

	46年			46年		
	1~3月	4~6月	7~9月	7月	8月	9月
民需	2,718	2,307	2,734	2,625	3,039	2,539
	(+12.3)	(-15.1)	(+18.5)	(-6.1)	(+15.8)	(-16.4)
同(船舶を除く)	2,356	1,830	2,211	2,446	2,082	2,104
	(+21.8)	(-22.3)	(+20.8)	(+9.0)	(-14.9)	(+1.0)
製造業	1,110	1,105	966	961	883	1,055
	(+2.2)	(-0.5)	(-12.6)	(-33.9)	(-8.1)	(+19.5)
非製造業	1,578	1,203	1,747	1,661	2,153	1,427
	(+13.7)	(-23.8)	(+45.3)	(+23.0)	(+29.7)	(-33.7)
同(船舶を除く)	1,267	750	1,233	1,489	1,190	1,021
	(+46.0)	(-40.8)	(+64.5)	(+80.8)	(-20.1)	(-14.1)

(注) 1. 四半期計数は月平均。
2. 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

期減少(-7.0%)の反動もあって、+25.2%とかなりの増加となった。

◇商品市況は下押し商状

10月にはいつてからの商品市況をみると、上・中旬中、条鋼類、綿糸等が大幅に値下がりしたのをはじめ、鋼板類、鉛、合繊、基礎薬品類、石油製品等も軟化ないし弱含みを続けるなど総じて下押し商状を呈した。

これは輸出の停滞が懸念されるほか、内需にも依然回復配がうかがわれなため、商社やユーザーが先安感を深めて、売り急ぎ買い控えの態度を強めたためである。なかでも鉄鋼は、商社などの弱気化から値くずれが目立ち、軒並み年初来の安値を割り込み、一部で37年ごろに近い水準にまで下落したほか、繊維でも対米輸出規制に関する政府間協定の仮調印を契機として先行き不安感が高まり、商社・機屋等の取引態度はとくに慎重化した。

もっとも、下旬にはいると、条鋼類、天然繊維等にみられた上記のような極端な売りあせり買い控えの傾向はさすがに弱まり、一部では値ごろ感による補充買いもみられたことから市況は下げ一眼(鉄鋼)ないし小反発商状(綿糸、毛糸等)となった。しかし、綿布等ごく一部の品目を除き実需が依然として不ぞえなことには変わりがない。

こうした状況から、各業界でメーカー等は生産調整、在庫凍結等の市況対策の強化を企図しており、鉄鋼、段ボール原紙等については不況カルテル結成の動きもみられる。しかし、需給関係が早急に改まる情勢にはないところから、市況の回復は当面期待薄と思われる。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……亜鉛鉄板、冷延薄板が保合いないし弱含みにとどまったほかは、軒並み一段安となり、とくに棒鋼、山形鋼はそれぞれ37年、43年の市況軟化時の水準に近い安値となったほか、くず鉄も安値を更新した。これは特約店等末端流通段階の売り急ぎに加え、問屋筋が内需の動意薄をながめていっせいに弱気に転じ、安値引合いに応じたた

めとみられる。もっとも、下旬にはいってからは、さすがに値ごろ感が台頭し若干の補充買いもみられたことから、市況は下げ一服となった。

繊維……対米輸出規制の政府間協定締結が確定したことから、月前半は機屋・商社筋が先行き輸出の大幅減少を懸念して、売りあせり買い控え態度を強めたため、綿糸、合織を中心にほぼ全面安商状となった。もっとも、天然・化学繊維では、月後半になってこうした売りあせりが静まり、また一部では値ごろ感による若干の手当て買いもみられたため小反発を示した。

非鉄金属……鉛、すずは続落したが、銅、亜鉛は海外相場の反騰、国内メーカーの減産や市中安値玉の買上げなどの市況対策の奏功から、月後半になって小反発を示した。

石油製品……生産の抑制にもかかわらず、需要が工業用、電力用とも伸び悩んでいること(灯油、重油)、長雨の影響もあって荷動きが停滞したこと(ガソリン)などから弱含みを続けた。

セメント……民間工事が低調を続けたうえ、長雨の影響もあって荷動き不ぞえのため、メーカーが企図した販価引上げはほとんど浸透せず、市況は保合いに推移した。

木材……米国西海岸の港湾ストが10月9日にタフト・ハートレー法発動により中止され、米材の入荷増が予想されるようになったことから、外材、内地材とも軟化気配に転じた。

化学品……合成樹脂は、大幅減産、在庫凍結などメーカー・商社のかかなり強力な市況対策にもかかわらず、需要好転のきざしがみられないため、弱保合いとなっている。基礎薬品類も硫酸、塩素、塩酸等おおかたの品目で需給失衡状態が続いているため弱含み商状を続けた。

紙……洋紙は、一部季節需要の台頭や減産継続による在庫の漸減を背景に、メーカー、代理店筋の価格引上げが浸透しつつあり、引き続きしっかり商状を示した。反面、段ボール原紙、板紙は青果、食品関係を除き荷動き低調で市況も弱含みを

卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウエイト	前年度比上昇率		最近の推移(前月(旬)比上昇率)								
		44年度 平均	45年度 平均	46年			46年9月			46年10月		
				7月	8月	9月	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	
総平均	100.0	+ 3.2	+ 2.4	+ 0.1	+ 0.2	- 0.3	- 0.1	- 0.1	- 0.3	- 0.3	- 0.1	
食料品	15.7	+ 4.2	+ 2.4	+ 0.2	+ 1.1	+ 0.6	+ 0.1	+ 0.2	- 0.6	- 0.2	- 0.1	
繊維品	10.7	+ 0.4	+ 5.2	- 0.4	- 0.5	- 1.3	- 0.3	- 0.4	- 0.4	- 0.2	- 0.1	
鉄鋼	9.7	+ 11.3	+ 2.2	+ 0.3	+ 0.5	- 1.8	- 1.1	- 0.5	- 0.8	- 1.3	- 0.7	
非鉄金属	4.4	+ 18.2	+ 7.6	+ 1.1	- 1.5	- 3.4	- 0.9	- 1.0	- 1.7	- 1.5	保合	
金属製品	3.8	+ 3.0	+ 4.2	+ 0.2	保合	- 0.1	保合	- 0.3	保合	- 0.3	保合	
機械器具	22.1	+ 0.1	+ 1.5	保合	+ 0.1	- 0.1	- 0.1	- 0.1	+ 0.1	保合	- 0.1	
石油・石炭・同製品	5.6	- 1.5	+ 4.5	+ 0.2	保合	- 0.1	+ 0.4	+ 0.2	- 0.8	+ 0.5	- 0.1	
木材・同製品	6.2	+ 3.0	+ 3.4	- 0.5	+ 1.5	+ 1.4	+ 0.8	+ 0.1	+ 0.3	- 0.3	- 0.1	
窯業製品	3.0	+ 2.3	+ 4.8	保合	- 0.1	- 0.2	- 0.1	保合	- 0.2	+ 0.1	- 0.2	
化学製品	7.6	- 0.4	+ 0.5	- 0.2	- 0.2	保合	+ 0.1	保合	- 0.1	+ 0.1	- 0.1	
紙・パルプ・同製品	3.4	+ 3.7	+ 6.7	- 0.2	+ 0.1	+ 0.4	+ 0.1	保合	+ 0.3	+ 0.2	- 0.1	
雑品目	7.9	+ 2.7	+ 3.4	- 0.3	- 0.1	- 0.2	+ 0.1	- 0.2	保合	保合	- 0.1	
工業製品	82.0	+ 3.0	+ 3.0	保合	+ 0.1	- 0.3	- 0.1	- 0.1	- 0.2	- 0.2	- 0.1	
大企業性	59.6	+ 2.3	+ 1.5	+ 0.1	保合	- 0.4						
中小企業性	21.0	+ 4.4	+ 6.5	- 0.2	+ 0.4	+ 0.2						
非工業製品	18.0	+ 4.1	- 0.1	+ 0.3	+ 0.4	- 0.2	- 0.2	+ 0.1	- 0.9	- 0.4	- 0.2	

(注) 本行調べ。

続けた。

砂糖……月央までは強含みに推移したが、その後にはメーカーの業績悪化などから市況対策の足並みが乱れ、市況は軟調に転じた。

(卸売物価——9月は3か月ぶりに下落)

卸売物価は、8月前月比+0.2%のあと、9月は前月比-0.3%と3か月ぶりに下落した(前年同月比-0.8%)。

類別にみると、鉄鋼が荷動き低調からかなりの反落を示したほか、繊維品、非鉄金属もそれぞれ需要不振、海外相場安を映じて下げ足を速めた。一方、化学品は合成樹脂の生産調整の奏功から下げ止まりとなり、食料品、木材・同製品は続騰した。また産業別では、工業製品が前月比-0.3%、非工業製品も同一-0.2%と、ともに反落した。

なお、10月にはいつてからも、上旬では鉄鋼、繊維品、非鉄金属の続落、米国港湾スト中止による木材・同製品の反落もあって、前月比-0.3%となり、中旬も鉄鋼、食料品、繊維品等の値下がりから前旬比-0.1%の続落となった。

(工業製品生産者物価——微落)

工業製品生産者物価は、8月保合いのあと9月は前月比-0.1%の微落となった(前年同月比-1.0%)。これは糸、非鉄金属、普通鋼鋼材等が値下がりをしたため、木材・同製品、繊維二次製品、食料品は続騰した。

(消費者物価——9月は急騰)

9月の消費者物価(全国)は、総合で前月比+3.8%の急騰となった(前年同月比+8.4%)。これは食料が野菜、くだもの高騰から大幅値上がり(前月比+6.9%)したほか、被服も反騰(同+5.8%)したためである(季節商品を除く総合、前月比+1.4%、前年同月比+7.3%)。

一方、10月の東京消費者物価(速報)は、総合で前月比-0.8%と反落した(前年同月比+6.7%)。これは、食料品がくだもの、生鮮魚介の大幅値下がりから反落(前月比-2.2%)したため、反面、光熱、住居、雑費は上昇した。このため、季節商品を除く総合では、前月比+0.2%(前年同月比+6.4

工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)		
		44年度 平均	45年度 平均	46年		
				7月	8月	9月
総 平 均	100.0	+2.4	+2.5	+0.1	保合	-0.1
食 料 品	12.6	+2.4	+4.3	+0.2	+0.5	+0.3
天然および化学繊維	3.0	-1.1	+6.7	-1.4	-1.8	-3.2
合 成 繊 維	1.4	-3.1	-6.8	-0.8	-0.7	-2.2
織 物	2.8	+1.3	+1.5	-0.3	-1.8	-0.1
織 維 二 次 製 品	3.2	+3.4	+7.4	-0.2	+1.5	+0.7
普 通 鋼 鋼 材	7.2	+10.2	+0.8	+0.6	+0.3	-0.8
特 殊 鋼 鋼 材 其 他	2.5	+3.0	+5.5	+0.1	+0.1	-0.1
非 鉄 金 属	4.4	+16.5	-6.5	+2.0	-1.2	-2.0
金 属 製 品	4.6	+2.2	+3.1	+0.1	-0.2	保合
一 般 機 械	10.4	+1.6	+3.3	+0.2	-0.1	-0.2
輸 送 機 械	8.3	-1.2	+0.2	保合	-0.1	+0.1
電 気 機 械 器 具	9.1	+0.1	+1.1	保合	-0.1	-0.1
石 油 ・ 石 炭 製 品	3.7	-1.6	+4.6	-0.1	+0.1	保合
木 材 ・ 同 製 品	5.0	+3.5	+6.3	-0.4	+0.8	+1.1
窯 業 製 品	3.4	+1.4	+2.9	保合	+0.1	保合
化 学 品	7.8	-1.0	-0.2	-0.1	+0.1	+0.2
紙 ・ パ ル プ ・ 同 製 品	4.5	+2.9	+6.0	+0.3	保合	+0.1
雑 品 目	6.1	+2.7	+3.2	+0.2	+0.1	-0.1

(注) 本行調べ。

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)			最 近 の 前 月 同 比	
		44年度 平均	45年度 平均	46年				
				8月	9月	10月		
消 費 者 物 価	総 合	100.0	+6.6	+6.9	-0.7	+5.3	-0.8	+6.7
	(季節商品を除く)	91.4	+5.6	+6.3	-0.1	+1.7	+0.2	+6.4
	食 料	40.9	+8.1	+7.4	-0.9	+9.9	-2.2	+6.6
	住 居	10.7	+3.0	+5.5	+0.2	+0.1	+0.5	+6.2
	光 熱	4.5	+0.3	+1.1	保合	保合	+0.8	+2.6
	被 服 費	13.0	+7.2	+11.0	-3.6	+9.2	保合	+6.4
全 国	総 合	100.0	+6.4	+7.3	+0.3	+3.8		+8.4
	(季節商品を除く)	91.4	+5.2	+6.3	+0.1	+1.4		+7.3
	上 の 都 市	100.0	+6.6	+7.4	+0.4	+3.9		+8.6
	(季節商品を除く)	91.3	+5.3	+6.4	+0.1	+1.3		+7.4
輸 入 物 価	輸 出		+4.0	+3.5	保合	-0.3		+1.0
	輸 入		+3.8	+2.4	-0.1	-2.8		-0.7
	交 易 件		+0.2	+1.1	+0.1	+2.7		+1.7

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。
2. 46年10月は速報。

%)と引き続き上昇した。

国際収支

(単位・百万ドル)

(輸出入物価—為替変動幅制限停止の影響から下落)

9月の輸出物価は、前月比-0.3%と昨年11月以来10ヵ月ぶりに下落した(船舶を除くと-0.4%)。これは、機械器具を除き、食料品、化学製品、繊維品等が軒並み下落したため、これには為替変動幅制限停止に伴い外貨建契約価格の円貨換算率が低下したことが大きく響いている。

また、9月の輸入物価も、上記事情が響いて前月比-2.8%の大幅下落となった。主要品目がほとんど軒並みに下落したが、とくに繊維品、金属、食料品等の下落が目だった。この結果、交易条件指数は前月比2.7ポイントの大幅な改善を示した。

◇9月の国際収支は比較的小幅の黒字

9月の国際収支は、総合で261百万ドルの受超(前月同3,304百万ドル)と久方ぶりに比較的小幅の黒字にとどまった。これは、貿易収支の黒字が860百万ドルと8月(866百万ドル、既往最高)に引き続き高水準であったものの、前月大量に流入した輸出前受け金の一部引落とし(注)を主因に短期資本収支、誤差脱漏が合計で310百万ドルの払超となったためである。

(注) 輸出代金の前受けが行なわれた場合、国際収支統計上これを「短期資本収支」(ないし「誤差脱漏」)の受取りとして整理し、後日、関係貨物の積出しが行なわれた時には、これを「輸出」に計上するとともに、これによって前受け債務が消滅するため「短期資本収支」(ないし「誤差脱漏」)の支払に計上する扱になっている。

貿易収支を季節調整後で見ると、輸出が米国向けは鈍化したものの総じて高水準の一方、輸入が依然として停滞を続けているため、引き続き

	46年			46年		45年 9月
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	
経常収支	450	1,292	2,113	820	680	223
貿易収支	1,071	1,778	2,514	866	860	405
輸出	4,932	5,765	6,239	2,053	2,070	1,696
輸入	3,861	3,987	3,725	1,187	1,210	1,291
貿易外収支	△ 541	△ 433	△ 362	△ 31	△ 167	△ 174
移転収支	△ 80	△ 53	△ 39	△ 15	△ 13	△ 8
長期資本収支	△ 194	177	△ 364	△ 74	△ 109	△ 71
本邦資本	△ 649	△ 445	△ 557	△ 190	△ 191	△ 138
外国資本	455	622	193	116	82	67
基礎的収支	256	1,469	1,749	746	571	152
	(741)	(1,548)	(1,444)	(689)	(448)	(61)
短期資本収支	131	660	550	582	42	84
誤差脱漏	222	159	1,761	1,976	△ 268	157
総合収支	609	2,288	4,060	3,304	261	393
金融勘定	609	2,288	4,060	3,304	261	393
外貨準備増	* 1,059	2,141	5,785	4,587	870	29
その他	△ 322	147	△ 1,725	△ 1,283	△ 609	364
外貨準備高	5,458	7,599	13,384	12,514	13,384	3,556
為銀対外 ポジション	866	1,162	△ 348	253	348	1,185

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。
4. *にはSDR配分額128百万ドルを含む。

輸出入指標の推移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通関		輸出 信用状	輸出 認証	輸入 承認
	輸出	輸入	貿易 じり	輸出	輸入			
46年1~3月	1,823 (+ 9.1)	1,304 (+ 0.3)	519	1,867 (+ 9.7)	1,630 (- 0.5)	1,514 (+ 8.7)	1,941 (+ 8.2)	1,562 (+ 2.4)
4~6月	1,940 (+ 6.5)	1,321 (+ 1.3)	619	1,985 (+ 6.3)	1,652 (+ 1.4)	1,713 (+ 13.1)	2,127 (+ 9.6)	1,550 (- 0.8)
7~9月	1,995 (+ 2.8)	1,259 (- 4.7)	736	2,023 (+ 1.9)	1,588 (- 3.9)	1,674 (- 2.2)	2,138 (+ 0.5)	1,477 (- 4.7)
46年 6月	1,990 (+ 1.0)	1,354 (+ 5.6)	636	2,051 (+ 1.5)	1,658 (+ 4.7)	1,755 (+ 5.3)	2,184 (+ 1.3)	1,702 (+ 14.3)
7月	1,982 (- 0.4)	1,319 (- 2.6)	663	1,998 (- 2.6)	1,682 (+ 1.5)	1,753 (- 0.1)	2,157 (- 1.2)	1,503 (- 11.7)
8月	2,019 (+ 1.9)	1,210 (- 8.3)	809	2,044 (+ 2.3)	1,530 (- 9.1)	1,633 (- 6.8)	2,125 (- 1.5)	1,382 (- 8.1)
9月	1,984 (- 1.7)	1,247 (+ 3.1)	737	2,028 (- 0.8)	1,553 (+ 1.5)	1,637 (+ 0.2)	2,133 (+ 0.4)	1,547 (+ 12.0)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。
3. 季節調整はセンサス局法による。

737百万ドルと大幅な黒字(前月809百万ドル)を記録した。

長期資本収支は、外国資本が、外資提携会社に対する出資金払込みがあったこと、対日証券投資も小幅ながら流入したことなどから前月に続いて受超となったものの、本邦資本が船舶輸出集中に伴う延払信用供与増、世界銀行に対する本行の円貸付の実行などにより大幅流出超となったため、

通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	46年			46年	
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月
	食料品	146	152	195	68
	(+17)	(-5)	(-2)	(-1)	(-12)
魚介類	72	73	102	38	31
	(+22)	(+13)	(+8)	(+17)	(-8)
繊維製品	558	714	720	244	234
	(+13)	(+23)	(+16)	(+20)	(+16)
綿織物	38	49	51	17	17
	(-5)	(+7)	(+7)	(+11)	(+12)
合繊織物	150	191	190	62	67
	(+23)	(+30)	(+15)	(+14)	(+20)
化学製品	342	372	385	131	127
	(+19)	(+26)	(+26)	(+39)	(+13)
非金属鉱物製品	82	96	102	35	32
	(-4)	(+2)	(+7)	(+11)	(-2)
金属製品	963	1,159	1,228	405	404
	(+18)	(+23)	(+22)	(+23)	(+13)
鉄鋼	745	905	960	312	323
	(+18)	(+31)	(+28)	(+31)	(+20)
機械機器	2,504	2,788	3,104	973	1,071
	(+30)	(+32)	(+36)	(+40)	(+36)
(船舶を除く)	2,014	2,401	2,628	863	869
	(+31)	(+34)	(+32)	(+35)	(+24)
テレビ	98	126	155	56	50
	(+39)	(+44)	(+32)	(+41)	(+24)
ラジオ	153	182	223	75	74
	(+13)	(+8)	(+13)	(+18)	(+5)
自動車	438	557	602	188	191
	(+66)	(+83)	(+67)	(+66)	(+52)
船舶	489	386	476	110	202
	(+25)	(+22)	(+71)	(+98)	(+135)
光学機器	117	141	150	49	49
	(+12)	(+14)	(+12)	(+17)	(+9)
その他	464	585	619	222	181
	(+22)	(+22)	(+16)	(+28)	(+3)
合計	5,060	5,866	6,355	2,078	2,109
	(+23)	(+26)	(+26)	(+30)	(+22)
(船舶を除く)	4,570	5,479	5,879	1,968	1,907
	(+23)	(+26)	(+23)	(+28)	(+16)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

109百万ドルの赤字(前月同74百万ドル)となった。

金融勘定では、為替銀行の放出短資の回収、輸出業者がユーザンスつき輸出手形を一覧払輸出手形に切り替える動きを強めたことなどを映じた買持輸出手形の減少等を主因に、為替銀行の対外ポジションは601百万ドル悪化して348百万ドルの負債超に転じ、一方、外貨準備高は月中870百万ドル

通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	46年			46年	
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月
食料品	705	689	664	202	237
	(+22)	(+14)	(-1)	(-4)	(-2)
小麦	90	80	61	14	24
	(+10)	(+21)	(-34)	(-51)	(-25)
とうもろこし	65	58	59	20	18
	(-12)	(-25)	(-7)	(+5)	(-17)
砂糖	93	89	65	23	22
	(+60)	(+42)	(-14)	(-16)	(-17)
原燃料	2,775	2,876	2,668	831	866
	(+15)	(+9)	(-1)	(-3)	(-6)
羊毛	66	74	68	25	18
	(-32)	(-21)	(-25)	(-15)	(-30)
綿花	134	145	114	34	31
	(+21)	(+11)	(+3)	(0)	(-17)
鉄鉱石	317	354	327	100	109
	(+19)	(+16)	(+5)	(+7)	(-7)
鉄鋼くず	43	31	26	5	8
	(-34)	(-69)	(-76)	(-86)	(-77)
非鉄金属鉱	246	266	270	82	97
	(-4)	(-3)	(0)	(-15)	(+13)
大豆	109	93	97	31	35
	(+24)	(+7)	(+11)	(+16)	(+4)
木材	387	382	306	91	90
	(+15)	(-1)	(-27)	(-31)	(-34)
石炭	272	264	246	63	80
	(+45)	(+6)	(-11)	(-29)	(-12)
原油	679	756	781	257	260
	(+25)	(+42)	(+44)	(+55)	(+37)
化学製品	247	247	228	73	75
	(+3)	(-3)	(-9)	(-12)	(-11)
機械機器	644	660	516	182	147
	(+15)	(+12)	(-7)	(-2)	(-19)
鉄鋼	40	24	23	10	6
	(-51)	(-68)	(-70)	(-65)	(-74)
非鉄金属	163	189	188	66	60
	(-38)	(-20)	(-21)	(-14)	(-16)
その他	293	316	377	120	122
	(+13)	(+12)	(+12)	(+5)	(+12)
合計	4,867	5,001	4,664	1,484	1,512
	(+11)	(+7)	(-3)	(-5)	(-7)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

ル増加して月末には13,384百万ドルとなった。

9月の輸出(通関ベース)は、季節調整済み前月比で-0.8%(船舶を除くと-4.7%)と減少したが依然高水準を続けた(原計数の前年同月比+22%、船舶を除くと+16%)。当月の増勢鈍化は、米国港湾ストのほか、同国の輸入課徴金賦課に伴う契約条件更改交渉により船積みがずれ込んでいることなどが響いたものとみられる。品目別にみると、船舶が著増し、合織、重電機器、自動車、オートバイ等も依然前年水準を大きく上回ったが、テープレコーダー、合板、陶磁器、はきもの、おもちゃ等がかなりの減少を示した。地域別では、東南アジア向けが好調を続け、このところ増勢鈍化きみであった西欧向け、共産圏向けも当月は高水準となったが、米国向けは上記の事情から激減した(前年同月比-6%)。

先行指標である輸出信用状接受高は、季節調整済み前月比で8月-6.8%、9月+0.2%のあと、10月は-1.8%と減少し、また、前年同月比でも+15%(9月+23%)と大幅な伸び率鈍化となった。品目別にみると、自動車、電気機器は引き続き好調ながら、鉄鋼、食料、雑貨が米国向けの不

ざえを主因に前年水準を下回った。

9月の輸入(通関ベース)は、季節調整済み前月比では+1.5%と増加したが、これは、8月著減(-9.1%)の反動による面が大きく、原計数の前年同月比では-7%(前月-5%)と、国内景気の停滞や米国港湾ストの影響から低調を続けた。品目別にみると、原油、肉類等一部には増加を続けているものもあるが、繊維原料、鉄鋼くず、鉄鉄、木材、パルプ、小麦、機械機器、化学製品等多くの品目が前年水準をかなり下回っている。

9月の輸入承認額は、季節調整済み前月比では前月大幅減少(-8.1%)の反動から+12.0%と急増したが、原計数の前年同月比では+3%(前月-9%)と引き続き低水準にとどまった。品目別には、食料品、鉄鉱石、石油、綿花は増加したものの、その他は軒並み前年水準を下回っている。

輸入素原材料在庫(季節調整済み、前月比)は、8月に-3.9%と6ヵ月ぶりに減少のあと、9月は+0.3%とほぼ横ばいにとどまった。一方、輸入素原材料消費は-0.7%と小幅ながら減少したため、在庫率は112.5(前月111.4、40年=100)と若干上昇した。